

よろずは

平成二九年

一月号

歌碑めぐり

19

- ① 吾^{わぎ}妹^も子^こが見^みし^と鞆^{とも}の浦^{うら}のむろの木^きは常^{とこ}世^よにあれど見^みし人^{ひと}そなき
- ② 鞆^{とも}の浦^{うら}の磯^{いそ}のむろの木^き見^みむごと相^{あひ}見^みし妹^{いも}は忘^{わす}れえめやも
- ③ 磯^{いそ}の上^{うへ}に根^ね這^はふむろの木^き見^みし人^{ひと}をいづらと問^とはば語^{かた}り告^つげむか

卷三の四四六〜四四八番歌

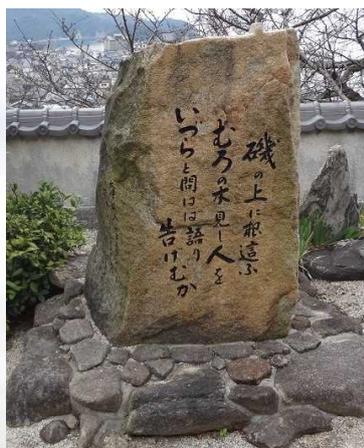
わがいとしい妻が往路に見た、鞆の浦のむろの木は、長く命を保っているのに、見た妻は今はどうもない。
これからも、鞆の浦の磯に生えたむろの木を見るたびに、共に見た妻を忘れることにはないだろう。
磯のほとりに根を伸ばすむろの木よ。かつて見た人は今どこにいるのかと私が聞いたら、お前は語って教えてくれるだろうか。

天平2年(七三〇)12月、大伴旅人が大宰府から平城京へ帰る道中で詠んだ歌々です。3年前に妻を大宰府で亡くしたため、行きは一緒に見た鞆の浦の「むろの木」(ネス・ネスミサシ、ハイネス)を、帰りは妻のことを思いながら見る悲しさが詠まれています。

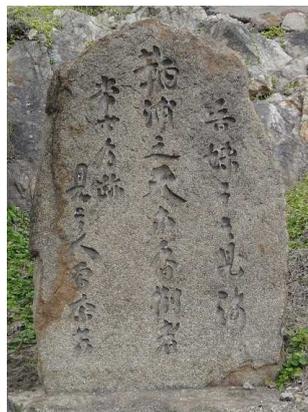
今、広島県福山市鞆にはこれらの万葉歌碑3基がそれぞれ点在しています。もっとも古い①が昭和39年(一九六四)に、もっとも新しい③が平成22年(二〇一〇)の建碑です。鞆の美しい景観を臨みつつ、3つの歌碑をめぐる旅も良いですね。

【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



③ 医王寺境内



① 福禅寺対潮楼の石垣下



② 福山市鞆の浦歴史民俗資料館前